

# 図書館だより

## 目次

図書館という公共空間	——篠原 聡子	1
著作紹介 白杵陽著『ユダヤ』の世界史	——白杵 陽	2
著作紹介 川端康雄著『ジョージ・オーウェル 「人間らしさ」への讃歌	——川端 康雄	3
学びの場・図書館	——奥 裕乃	4
西生田図書館と私	——林 春伽	4
西生田図書館移転報告	——飯山 智子	5
初めましての春 ～日本女子大学図書館利用案内～	——中澤 恵子	6
図書館2階「JWU ラーニング・コモンズさくら」で お会いしましょう	——中澤 恵子	8
図書館前横断歩道について		8



ジュウガツザクラの花と図書館

## 図書館という公共空間

篠原 聡子

図書館の歴史は、意外に古いが、それが誰でもがアクセス可能な建築となったのは、19世紀後半のことである。パリのアンリ・ラブレスト設計によるサント＝ジュヌヴィエーブ図書館（1851年開館）は、フランスにおいてはじめて公共の図書専用として計画された建物である。サント＝ジュヌヴィエーブ図書館の外観はネオルネッサンス様式の石積みの外観で端正にして、パリの街並みに溶け込んでいる。しかし、ひとたび中に入ると、その印象は一変する。蔵書に囲まれた垂直性の強いプロポーションを持つ空間は、ゴシックの聖堂のような神聖な雰囲気をもちながらも、屋根のポールの支える鉄の支柱の細さによって、一体的で開放的な閲覧空間となって眼前に現れる。この建築は、鉄骨を構造として使用しただけでなく、意匠的にもその軽快さを前面にだし、モダンデザインに繋がる鉄骨建築として嚆矢の存在である。さらに、サント＝ジュヌヴィエーブ図書館の開館は、修道院などの附属の施設として限られた人のものであった本という知的な資源の貯蔵空間が、名実ともに公共の図書館という開かれた質を獲得した瞬間でもあった。

オランダ人建築家レム・コールハース率いるOMAが設計したシアトル中央図書館（2004年開館）も、その開放的なあり様が話題を呼んだ図書館である。起伏の多いシアトルの街の地形をうまく取り込み、それに呼応するよううねった外観は、わくわくするような思いをいただきせ、その場所をエンカレッジするに十分である。一階は街に同化した広場のようなオープンスペースで、ホームレスの人々にも安心な居場所を提供している。実際、街から連続した空間にはいり、エスカレータに乗ると、気が付いたら図書館にいた、という感じなのである。サント＝ジュヌヴィエーブ図書館の開放性は室内空間のそれであったが、シアトル中央図書館はさらに踏み込んだ都市との一体的な空間が現出されている。

近代になり、多くの建築的な大空間が公共のものとして人々に開かれてきたが、その中でも図書館は重要な公共の場を提供してきた。それまでは、教会のような宗教的な空間を除いては、公共の内部空間というものはごく稀であった。図書館は私たちが獲得した知の公共空間なのである。公共性とは、アクセシビリティの高さをもつということである。それは、どんな人でも、どんなときでも、入ることができし、居ることができる、という意味である。大学の図書館は、万人に開かれているわけでないが、本学の図書館もこのコロナ禍がすぎた暁にはもう少し対象者を広げることができるだろう。そして、どんなときにも、というのは24時間という意味ではなく、目的があろうとなかろうと、という意味である。本を読む、本を探す、友人と語り合う、思索にふける、ただそこから外を見るなど、その場にあることに意味があるような空間の包摂性のことである。私たちの日本女子大学の図書館には、そうした多様な居方を包摂する質がある。だから、目的があっても、なくても、ここを訪れてほしいのである。

(学長・住居学科教授)

## 著作紹介 臼杵陽著『「ユダヤ」の世界史：一神教の誕生から民族国家の建設まで』

臼杵 陽

ユダヤ人とは誰かと問われれば、どんなふうに答えるだろうか。日本社会ではユダヤ人と出会うことは滅多にないのでなかなかイメージしづらい。そもそも、ユダヤ人は外見上の特徴があるわけではない。風刺画に描かれる鉤鼻で髭を生やしてという人物像も、東欧・ロシア系ユダヤ人の特徴の一端を述べたものにすぎない。欧米以外の地域に住むユダヤ人はその外貌はずいぶん異なっている。それも当たり前で、ユダヤ人は「人種」ではないからである。したがって、ユダヤ人を世界史の中で語ろうとする際にもいろいろな問題が生まれてくる。だからこそ、世界史の教科書のように時間軸と空間軸に沿ってマトリックスを埋めるかのように描いていくということになってしまう。

これまでも翻訳を含めてそれなりの数のユダヤ人の歴史についての書籍は刊行されてきた。しかし、その記述は欧米世界に偏ってしまう傾向があった。私自身はもともと中東イスラーム世界から研究を出発させたので、その観点から見てしまう。そのため、中東以外の地域を旅行する際もできるだけユダヤ人の住む（あるいは住んでいた）居住区を訪れるようにしてきた。そうするうちにむしろ世界各地に住むユダヤ人の共通性とともな多様性に注目するようになったのは当然といえるかもしれない。

例えば、かつてインドのムンバイ（ボンベイ）を訪れた際、ユダヤ人の職業訓練の施設を訪れたことがある。その時、ナガランド出身の「ユダヤ人」をイスラエルに送り込むための職業訓練を行っていた。ナガランドはインド領が東側のミャンマー領に食い込んだような場所である。そこで訓練を受けていた「ユダヤ人」はわれわれと似たような外見の人だったことを覚えている。「ユダヤ人」とは誰なのかという問題を改めて考えさせられたのである。

実は、ムンバイには私がずっと研究対象としてきたイラクのバグダード出身のユダヤ人名望家サスーン家の設立した図書館がある。バグダード出身のユダヤ人はムンバイに拠点を置き19世紀にアヘン貿易で莫大な利益を得たのである。サスーン家といえば、アヘンを売り込んだ先である中国の上海のサスーン・ハウスを思い出す人もあろう。そしてサスーン家の施設は神戸の高台にもある。バグダードのユダヤ人はイギリスの覇権に乗っかる形で国際的なネットワークを持っていたのである。

そもそも、世界各地に住むユダヤ人の多様性への関心を促すきっかけになったのは、イスラエルのテル・アヴィヴ大学のキャンパス内にあるディアスポラ博物館を訪れた時だった。いろいろな場所で離散して暮らすユダヤ人の生活を展示しているのであるが、各地域の文化に根差した多様性に満ちている。しかし、やはりユダヤ教徒としての信仰を中核として共通性と統一性もその伝統を通して維持している。このような関心が前述のように、ユダヤ人の歴史を、世界史という時間軸と空間軸の広がりの中で語ってみようという無謀な試みにつながったのである。

私自身が1991年の湾岸戦争を挟んでエルサレムのヘブライ大学に2年間留学していた時にずっと付き合っていたバグダード生まれのテル・アヴィヴ大学教授がいた。彼は大学近くのラマト・アヴィヴに住んでいたが、その地域はバグダード出身のユダヤ人が多く住んでいたので揶揄的に「ラマト・バグダード」と呼ばれていた。ラマトとはヘブライ語で「高い丘」（ゴラン高原の「高原」もこの単語を使う）という意味であり、「テル」もほぼ同じ意味の「丘」である。そしてアヴィヴは「春」である。「春の丘」という優雅な名をもつ街にサッダーム・フセイン・イラク大統領は湾岸戦争中、スカッド・ミサイルを数多く打ち込んできた。イスラエルに住むイラク系ユダヤ人は、サッダームの母親は困窮の中、イラクのユダヤ人篤志家の支援によって救われたのだと話していた。イラク出身のユダヤ人からすれば、サッダームは恩をあだで返したというわけだ。そんなエピソードを思い出した。

イスラエルというユダヤ人国家はユダヤ民族の長い歴史の中では、そのほんの一部に過ぎない。ユダヤ民族史を記述した本書は、私自身にとってもユダヤ人とは誰かという問題を改めて考えるための新たな試みであったといえるのかもしれない。（図書館長・史学科教授）

2020年1月発行 作品社 406頁 \*請求記号227.9-Usu

## 著作紹介 川端康雄著『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』

川端 康雄

本書は『一九八四年』（1949年）の著者として知られるイギリスの作家ジョージ・オーウェル（1903-50）の評伝である。

2020年にイギリスで行われたある調査によると『一九八四年』は「読んでないのに読んでふりをしてる本」のNo.1であったそうで（2位がトルストイの『戦争と平和』、3位がジョイスの『ユリシーズ』だったとのこと）<sup>1</sup>、逆に言えばそれだけ話題にのぼる頻度が高い作品だということでもあり、これまでの膨大な出版部数を考えれば、ちゃんと読んで人も多くいるのは確かであろう。

じっさい、原書刊行から70年以上経つが、この小説があまりにも影響力をもったので、そこで描かれた全体主義的な世界を表現するのに「オーウェリアン」（Orwellian）という言葉が英語の辞書の見出し語に加わっているほどである。最近もコロナ禍に伴うさまざまな日常生活の統制に対して、行き過ぎた情報管理社会に向かう懸念を表明するときによくこれが言及される。いまや「オーウェル」は生身の人間というより、ひとつの文化的アイコンと化しており、世界規模でそれが増殖している。『一九八四年』がそれほどまでに現代の問題と関わる重要な作品であることは間違いない。しかしながら、冷戦初期の特殊な状況下でこの小説は独特な色眼鏡で見られるようになった。占領下でアメリカ政府の強い影響下にあった日本もその例にもれない。その色眼鏡はいまでも残存している。

オーウェルは一般にはまず「政治作家」と見られる。じっさい、『動物農場』は本人が言明したように「ソヴィエト神話の暴露」を狙って書いた動物寓話であるし、『一九八四年』も20世紀前半に跋扈したファシズムやスターリニズムの全体主義体制をふまえてさらに徹底した管理体制を想像し警告した小説であったわけで、その形容は間違っていないのだが、これらの作品に比べて知られていないのは、イギリスの庶民の日常生活に関わるエッセイ群である。イギリス料理や紅茶を飲む習慣、あるいは少年週刊誌や漫画絵葉書、懐かしい流行歌といった、イギリスの民衆文化のさまざまな事象を扱ったそうしたエッセイには、「庶民の人間らしさ」（コモン・ディーセンシー）へのオーウェルの全幅の信頼が書き留められている。それがこの作家の根っこにあり、それがあるからこそ全体主義的な心性を厳しく撃つ作品を描くことができたのだと私は考えている。『一九八四年』が刊行以後これまで及ぼしてきた影響を考えればその格別な意義は言うを俟たないが、彼の生涯と仕事の全体を把握したうえで最後の小説を見たほうが、より深い理解を得られると思えるのである。そういう狙いを持ち、新書というかたちで一般の読者にむけてオーウェル伝を書いてみた。

文字どおり波乱に富む生涯だった。植民地インドで役人の息子として生まれ、名門のイートン校を出てインド帝国警察官としてビルマに赴任、イギリス帝国の植民地支配の片棒を担ぐのに嫌気がさして5年で辞め、放浪生活を経て作家となる。1936年にスペイン内戦が始まるとバルセロナに赴き共和国政府側の民兵となってファシストと戦い、狙撃されて瀕死の重症を負いながら生還、スペインでソヴィエト体制の問題に気付いたことが『動物農場』の着想となる。そして『一九八四年』を命がけて書いて、じっさい刊行後1年を経ずに結核で死んだが、46歳でまだ書きたい小説が他に複数あったことがわかっている。手元には浩瀚なオーウェル全集20巻があるし、関連資料も多くある。生涯の出来事、エピソードで取り上げたい事柄があり余るほどあり、むしろそれらのうちのどれを残し、どう組み合わせるとひとつのナラティブとして一冊の新書にまとめるか、その点に心を砕いた。それがどの程度うまくいったか、これは読者の判断に委ねるしかない。（英文学科教授）



<sup>1</sup> <https://jp.reuters.com/article/idJPIJAPAN-36852820090306>

## 学びの場・図書館

奥 裕乃

皆さんは、大学の図書館にどのような印象をお持ちでしょうか。本を借りる場所、本を読む場所、勉強する場所、落ち着ける場所など、図書館に対して様々な印象をそれぞれの方が持っていると思います。難しそうな本や専門書ばかりの図書館に、なんとなく気後れした方もいるかもしれません。

私も大学入学当初は、課題に必要な本を借りるために一人で図書館を利用していました。しかし、図書館の利用回数が増えていくうちに、本を借りて読む以外の目的で図書館を利用することも増えました。例えば、友人とグループ研究室を貸し切って、授業のグループ課題を作成したり、互いに問題を出し合いながら国家試験の勉強に活用したりすることもありました。

現在、図書館の入り口の近くにはラーニング・コモンズがあり、学生生活や授業で困っていることをラーニング・サポーターに相談することができます。また、ラーニング・コモンズでは時々ミニ講座も開催されています。みなさんと年齢の近い先輩の講座を聴くことで、授業のみでは得られない新鮮な学びを得ることができるとでしょう。さらに、貸出ノートパソコンやWi-Fiが完備されているため、図書館から遠隔授業に参加することや、オンラインでグループ学修をすることも可能です。このように、図書館は“一人で”だけでなく、“誰かと”も学ぶことのできる場だと思います。

図書館には、自分の興味関心がある本、授業に必要な本、あまり興味のない本など多くの蔵書があります。また、蔵書だけでなく、ラーニング・コモンズや設置パソコンなど、皆さんの学修に役立つ設備がそろっています。図書館を訪れた際に一度、図書館全体を歩いてまわってみてください。様々な出会い・発見があるはずです。そしてぜひ図書館を役立て、大学生活での学びを豊かなものにしてください。

(大学院人間発達学専攻D1・ラーニング・サポーター)

先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★

## 西生田図書館と私

林 春伽

大学を渡り歩いてきた私にとって西生田図書館は3つ目の大学図書館だった。今まで本キャンパスの大きい図書館しか利用したことがなかったから、正直古く暗い印象で「建物が独立していないのか、小さいな」と思った。しかし、この図書館を一番よく使ったし、閉館するとなると寂しい。

本学図書館にはラーニング・サポーターが在籍しており、学生の学修支援の業務にあたっている。私は、2018年の夏頃からラーニング・サポーターとして泉ラーニング・スペース（西生田）に在籍していた。今まで所属した大学には無かったから「何する人だ?」と思った。業務中は、学生の皆さんから、履修の確認、レポートの書き方、参考文献の探し方など質問を頂き回答した。その度に、私自身「このやり方で良いだろうか」「もっと効果的な方法はあるだろうか」と改めて調べ直した。質問者が設定したテーマを聞くと「こういう視点は私には無かった」と新たな気付きをもらうこともあった。私は質問に回答する立場だが、同時に学んでもいた。業務形態上、質問者とはほぼ一期一会であるからこそ、その一瞬を大事にしたかった。自分の経験や積み重ねが、皆さんのために少しでも役に立てばいいと思っていた。ミニ講座の準備や発表も、自分の経験が役立つかもしれない可能性を感じることができて嬉しかった。図書館はただ本を借り貸しする場所ではないと実感した。すべて西生田図書館での出来事だ。

皆さんは新しい図書館を色々な角度から使用してほしい。困ったことがあれば、少し先輩のお姉さんたちに聞いてみるといい。目的も無くぶらぶらしたりするのだって良い。イベントがあれば軽い気持ちで参加してみてもいい。本との、人との、何気ない一瞬が皆さんの糧になる。大学生でいる時なんて思ったより短い。一瞬を謳歌してほしい。「皆さんに素敵な出会いがありますように」と思いながら私は卒業する。

(大学院相関文化論専攻D3・ラーニング・サポーター)

## 西生田図書館移転報告

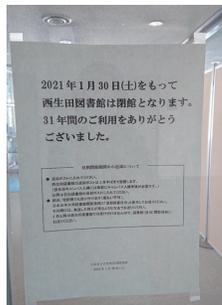
飯山 智子

Vision120において計画された目白キャンパスの新図書館の蔵書収容量は、かねてより図書館が要望していたものよりはるかに少ないものとなり、2019年4月に開館する時点でほぼ満杯になると予想された。この新図書館だけでは、その後増加する蔵書そしてキャンパス統合時に人間社会学部とともに西生田図書館より移設される蔵書を収めることは難しかった。そのためキャンパス統合後は西生田図書館を保存書庫とし、目白の新図書館と西生田保存書庫の2つで蔵書を収蔵・管理保存していくことになった。統合時に移管する蔵書の収容場所を確保するために、2018年度に目白図書館の資料3500箱分を外部倉庫に委託し、収容量に余裕をもたせる準備を行った。そうして2021年4月の統合時に西生田図書館から目白の新図書館へ移動させる蔵書は、目白の図書館の蔵書との複本以外のすべてとする計画となった。

2019年4月、実際に新図書館に目白の図書館の蔵書を収めたところ書架は予想以上に収容量が少なく、西生田図書館から予定していた量すべてを移動させるのが難しくなった。予定量の移動ができないか様々に検討を重ねたが、西生田図書館から移動させる蔵書を絞らざるを得ないという結論に至ったのは苦渋の決断であった。選択は人間社会学部の学科構成を考え次のように行った。図書・雑誌とも目白の図書館に複本がない資料のうち、



図書は心理学、社会学、芸術関係を中心として移動、雑誌はタイトルの刊行最新3年分のみを移動させバックナンバーは西生田図書館に残すことにした。人間社会学部の先生方にこの選択をご承諾いただかなくてはならない結果となってしまったことは大変心苦しいものであった。先生方には図書館が選択した資料以外に移管を希望するものを挙げていただき、それも移動資料とした。西生田保存書庫に残る蔵書の利用については、2021年4月以降も保存書庫から目白の図書館へ速やかに資料を取り寄せられる手段を講じることで、ご理解をいただいた。



2021年1月30日、西生田図書館は31年間の幕を閉じた。

2月12日より引越業者による蔵書および機器・備品類の目白キャンパスへの移設が開始された。約10万冊の蔵書移動の作業は次のように行った。西生田図書館より目白の図書館へ移動する資料の背に事前に色丸シールを貼付した印をつけ（シール貼付をせずに書架全体を移動対象と指示した資料もあり）、その資料を書架から抜き出して1冊ごとにバーコードのスキニングをしてから箱詰めをし、目白の図書館の該当する書架に再配架を行った。図書館から学科の資料室への移動資料も同様の作業を行い学科へ届けた。

西生田図書館に残された資料は書架上にまとめられ、次の作業を待つ。4月以降は、西生田図書館内に書架を増設し収容量を増加させる工事を行う。その上で、2018年度に西生田図書館資料移管のために目白の旧図書館より外部倉庫に預けられた蔵書（3500箱分）を、西生田図書館（以降保存書庫と表記）に戻し保管する。保存書庫の資料のうち複本は順次除籍作業を行っていく予定である。

今後、移動されずに保存書庫に残った資料の中で目白の図書館に配置が必要なものがあれば、そのつど移管を行っていく。また目白の図書館で利用が少ない資料は、保存書庫へ移していくことが必要となる。常時必要な資料は目白の図書館に、必要度が低い資料は保存書庫に、と互いに移し替えていくことにより、図書館と保存書庫の役割分担が次第にうまくできていくだろう。両館の蔵書の状態が落ち着くまでにはしばらくかかるだろうが、今後は新たな日本女子大学図書館として機能するように、図書館・保存書庫の効率的な運用に努めていくつもりである。（西生田図書館課長）

## 初めましての春 ～日本女子大学図書館利用案内～

2021年4月、本学4学部・大学院5研究科が目白キャンパスに統合され、目白と西生田の両キャンパスにあった大学図書館もひとつになります。西生田キャンパスの図書館は保存書庫となり、書庫の資料は目白に取り寄せて利用することになります。全利用者の方に「初めまして」の春です。

本来ならば「本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は当館を利用できます」と始めるところですが、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応のため6月から最終開館日まで「本学の学生（事前申込制）・教職員対象の限定開館」となりました。2021年度についても状況次第となりますので、当館ホームページを随時ご参照ください。

### ☆ 日本女子大学図書館ホームページ URL ☆

< Web サイト > <http://lib.jwu.ac.jp/>

< 携帯サイト > <http://lib.jwu.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

< モバイルサイト（スマートフォン対応） >



App Store, Google Play ストアから「Ufinity」と検索してアプリを入手できます。

「Ufinity」の中から「日本女子大学図書館」を選択設定してください。

### ☆ 日本女子大学図書館公式 Twitter URL ☆

[https://twitter.com/JWU\\_Library](https://twitter.com/JWU_Library)

### ★まずは図書館利用者登録！★

初めて大学図書館を利用する方は、学生証、教職員証を持参の上、2階（エントランス階）カウンターに申し出てください。新入生の場合は学生証のバーコードを図書館システムに登録します。新入生以外の場合は図書館利用カードを交付します。登録した学生証及び利用カードは本人のみ有効であり、図書館への入館、図書の貸出など、図書館で各種利用サービスを利用するのに必要です。



図書館利用カード（新入生以外）

### ★資料を探すには？★

当館は**開架式**です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。資料は、和書、洋書、雑誌、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて配置されています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデューイ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。なお、和装本、視聴覚資料など、一部の資料についてはスタッフが出納します。利用を希望する場合はカウンターまで申し出てください。

同じ主題でも配置場所が分かれている場合があるので、書名または著者名、あるいはキーワードが分かっている時は、**OPAC（Online Public Access Catalog：オンライン目録）**で本学の蔵書を検索し、配置場所と請求記号を調べましょう。OPACは当館ホームページから利用してください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

借りたい図書を見つけたら、利用カード（新入生の場合は学生証）と一緒に2階カウンターへ持参してください。貸出は必ず本人が手続きしてください。**なお、図書の返却が遅れている間は貸出できません。図書を延滞すると遅れた日数分だけ貸出停止になるので注意してください。**

当館ホームページから **My JWULIS（Japan Women's University Library Information System）** も活用しましょう。利用状況の確認、貸出更新、OPACの検索結果から予約（貸出中図書予約、保存書庫保管図書取り寄せ）ができるほか、検索結果・検索式の保存をインターネット上で行うことができます。

当館ホームページトップ

My JWULIS はこちらから入れます。

こちらが日本女子大学 OPAC です。当館ホームページトップの OPAC をクリックすると入れます。

日本語 | English

日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY LIBRARY

OPAC TOP 資料検索 カレンダー 図書館からのお知らせ

メニュー

- OPAC TOP
- 資料検索
- カレンダー
- 図書館からのお知らせ
- 図書館ホームページ
- 電子ジャーナルA-Z

My JWULIS

利用状況の確認

図書館からのお知らせ

蔵書検索 他大学検索 本字リボストリ

簡易検索 詳細検索

検索

分類検索 | 雑誌タイトルリスト | 指定図書 | 新着案内 | 貸出ランキング | アクセスランキング |

最新 5件 RSS

連絡事項 Maruzen eBook Libraryについて 07/07 15:00

連絡事項 配置場所「図書館西生田」「図書館西生田A」について 05/17 14:51

連絡事項 図書館システム更改 04/02 08:45

もっと見る

★参考係に相談しよう★

参考係は皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。資料の検索方法がわからない、必要な資料が見つからないという時は相談してください。

★パソコンを利用する★

図書館パソコンには、常時起動状態ですぐに学術情報を検索できる **OPAC 端末**と学術情報に加えて Office2016 (Word, Excel, PowerPoint) やホームドライブを使用できる **JASMINE 端末**があります。JASMINE 端末には各フロア設置のデスクトップ型以外に**貸出ノートパソコン** (館内限定) もあるので活用してください。全フロア jwu-wifi 利用可です。

★他大学図書館協定利用★ (2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応のため利用停止)

当館は、**学習院大学図書館 (2009年11月1日施行)**、**お茶の水女子大学附属図書館 (2011年11月1日施行)**、**跡見学園女子大学図書館 (2013年11月1日施行)**と図書館相互利用協定を締結しています。f-Campus (5大学単位互換制度) も併せ、下表にて紹介します。2021年度についても状況次第となりますので、当館及び各大学図書館ホームページを随時ご参照ください。



	図書館相互利用協定			f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学, 学習院女子大学 立教大学, 早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧, 複写 図書の貸出	館内閲覧, 複写	館内閲覧, 複写	館内閲覧, 複写

\*詳細は当館ホームページ「協定校利用案内」(<http://lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>) 参照。

(館員・閲覧係 中澤恵子)



## 図書館2階「JWUラーニング・コモンズさくら」でお会いしましょう

図書館入館ゲートを入れて直進すると低書架の先に広がる場所、そこが **JWUラーニング・コモンズさくら**（以下さくら）です。

キャンパス統合に伴い、西生田図書館の泉ラーニング・スペースの機能も引き継ぎ充実します。そして同じく今春、百二十年館地下1階に誕生する **JWUラーニング・コモンズかえど**と共に、**キャンパスにおけるネットワーク型ラーニング・コモンズ**としてそれぞれ特色のある役割を担います。

さくらでは**図書館の資料やデータベースを自由に使ってさまざまな学修活動ができます**。総座席数は74席、3つのエリア（可動エリア・固定エリア・学修相談席）に分かれています。**可動式机・イス・ホワイトボード**、各種機器類を備え、可動エリアでは席を自由に組み替えることができます。

機器類は、**電子黒板**、**インタラクティブ機能内蔵プロジェクター（卓上投影用）**、**モニター付大型テーブル席**、**ネットワークフリップチャート**、**インタラクティブ機能内蔵超短焦点プロジェクター**、**超短焦点用80型ロールスクリーン（携帯型）**、**可動式プロジェクター**、**80型ロールスクリーン（携帯型）**を備え、**ノートパソコン**、**モバイルプリンター**を貸出します。各種機器類の貸出・利用方法については2階カウンターで案内します。

さらに、学科・専攻推薦を受けた本学学生（大学院生、学部上級生）の**ラーニング・サポーターに学修相談**ができます。履修のこと、勉強の進め方、レポートの書き方等、学修に関するさまざまな相談をしてみましょう。先生方やラーニング・サポーターによる**ミニ講座等イベント**も随時開催します。2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応として**オンラインでの学修相談やミニ講座**を実施しました。サポーターの専門分野など時間割やミニ講座開催日時は当コモンズ内の掲示、図書館ホームページ、図書館Twitterで確認できます。



日本女子大学図書館目白2階  
JWUラーニング・コモンズさくら オンラインミニ講座

### 絵で見る自分の心

—「自分を知らう」アートセラピー—

日時：2021年1月25日（月）12:40～13:10  
講師：ラーニング・サポーター（人間発達学専攻D1）  
対象：本学学生・教職員  
申込期間：2021年1月18日（月）～25日（月）10時まで  
申込方法：右のQRコードもしくは図書館IPの  
当ミニ講座お知らせページからお申込みください。

※画用紙（またはA4用紙）・クレヨンまたはクレパスを用意してください

「アートセラピー」とは、アート表現の「見えない心にかたちを与える力」を利用します。心身の健康を回復させるだけでなく、自己成長や自分らしさを取り戻す心理療法の一技法です。絵のうまい下手は関係ありません。楽しくありのままを表現することで、「本当の自分」と出会ってみませんか？ご参加お待ちしております。

2020年度ラーニング・サポーターのオンラインミニ講座開催例  
(館員・閲覧係 中澤恵子)

### 図書館前横断歩道について

大学正門と図書館の間の目白通りは、これまで歩道橋で横断することになっていましたが、歩道橋が撤去され、2020年6月から横断歩道で渡れるようになりました。

横断歩道の敷設により、泉山地区と図書館との往来がスムーズになりましたが、横断の際は必ず信号を守り、安全をこころがけてください。

**編集後記** いよいよキャンパス統合が実現する。旧図書館が建っていた泉山地区の中心部には新たな百二十年館が姿を現し、キャンパス全体のイメージも随分異なるものになっている。図書館でも、西生田図書館から10万冊の資料が移動してくるにより、配置が変更になる箇所がある。図書館の配置にやっとならなってきた人が多いであろうところ大変申し訳ないが、一気に増えた蔵書を活用していただければと思う。(浜口)

2020年度図書館だより編集委員：浜口都紀、水嶋寿恵、吉原三紀子